

私書箱

☎100-91

東京都中央郵便局

私書箱916

AA日本ニュースレター

No.4

AA日本ゼネラル・サービス・オフィス内 広報委員会
TEL03-590-5377 ☎160 東京都豊島区池袋 2-1083 橋ビル9F

全国の仲間越生に集う!

春のラウンドアップ開催

新緑の季節は新しい命があふれている。そんな想いで池袋より東上線に乗り、目的地越生に着いた。五月晴れの空、刻々と濃くなっていく木々の若葉、小鳥のさえずり、目をつむると薫風が頬に心地よく、何とさわやかで大らかな気分! 今日から始まるラウンドアップ、新たな仲間との出会い、それぞれの人に新たな自分を育て伸ばす機会が待っているかのようなスタートだった。

受付にズラリと並ぶ顔には、北からは北海道、南から九州と文字通りのラウンドアップである。今回のラウンドアップの特色は関東以外の人達の参加が多かったこと。新しいメンバーの参加が目立ったこと、宿泊者が多かったことである。

初めて試みた、24時間開放の部屋でのフェローシップの声が朝まで聞こえ、部屋に入りきれずロビーなどで話す仲間の顔も見られ、実行委員としては、心配で眠れないという感じであった。私などは、どんなことがあったのかよく覚えてなく、今、頭をかかえて原稿を書いている始末である。そこで私なりに感じたことを書いてみることにした。

ステップ5を終えた時、スポンサーから言われた言葉「これからは自分の行動に責任を持ち、目の前の小さな石コロでも意味あることを考えなさい」そしてAAの中で何か役割をやらせて戴いた後、必ず感謝できる確かさは、自分にできることをやれる場があり、それを受入れてくれる仲間がいることである。

たとえ小さな石コロ一つでころんでも何かを感じさせてくれる。まして「仲間と共に」ならなおさらのことである。それに終わった後の大らかなさわやかさは、値札のない無償の愛の気分にさえなれるようだ。

AAの全体的な催しが活発に実行されていくなかで忘れてならない点は、J S Oの協力である。実行委員といえども自分たちにも職場があり、そ

れぞれの都合がある。それに代わって全国からの問い合わせに答え、開催までの運営に協力してくれるオフィスの必要性は重要であり、それが改めて認識された。

多くのメンバーからラッフル用献品の協力があつた。また、当日会場でもラッフル献金、¥310,670が集り、ラッフル献金の目的であるJ S Oを支援する高まりが会場にこだまして、楽しいラッフルタイムが持てたことは大きな収穫だった。

尚、全国からわれわれのAA活動を理解していただいている多くの関係者(45名)が出席してくださったこと、またわれわれの12のステップ活動の良識が表されて、全国代議員集会も開催され、日本のAAグループ全体の意見を表明する評議員の選出選挙も行われたことは有意義なことであろう。

「われわれはたえず立ち止まってはられない」の言葉通り、秋に向けての準備も始まった。

秋のラウンドアップの日程は、10月18日(日)、19日(月)、20日(火)。そしてAAのメンバーの一人ひとりが手をつなぐ必要性を感じて、みちのく、九州でも開催されるとは、本当に「大らかな始まり」である。

最後に一こと言わせていただきたい。かわいい声で!! やったね.....と?

AA87春季ラウンドアップ実行委員長
今井



文書を考える集い

文書委員会

病気で苦しんでいる中毒者が、心の中で「助けて下さい」と叫んでいる。そこに「あなたの苦しみは分かる。私もそうだった。だから一緒にやろう」とAAのメンバーが言うことでお互いに心が一つになる。固く閉ざされた心の中で何かが変わったのだ。

AAの出版物は活字になって、一人ひとりのメンバーに届けられる。その時に何が起ころのだろう。「情熱を燃やすには本がとても大切なのです。自分に起こったいろいろな問題にメンバーが答えてくれない時に、迷いがでます。本が一つのきっかけになって落ち着くことができるのです」。またあるピギナーはこう言っている。「助けを求めても、答えてくれる者がいない一人ぼっちの時にもし、手元にAAの本が一冊でもあったら、それがきっかけになって、全部とはいわなくても、何かが起ころのではないのでしょうか」。

私たち文書委員会は、AAが送り出す多くの文書の見直し、翻訳、出版に追われていて、今まで読者側からの意見や感想を求める機会がなかった。そして、この会に出席したメンバーは、文書が熱いメッセージや、討論の材料となっている事実を教えてくれた。

文書は非常にレベルの高いメッセージであり、AAの内側では、文書を買って求め、読むことによって献金と同じような責任とそして参加を果たすことができる。外に対しては自信と希望を持って行動することができるのである。文書による言葉が今の日本のAAの顔であるとするならば、今や「全国的レベルで、奉仕活動としての文書のレベルアップを考えていかなければならない時がきているかもしれない」のである。

また、あるメンバーの「送り仮名や漢字の使い方が恣意的で、わりとやさしい漢字にルビが振ってある。紙面が暗い。言葉としておかしいような点も目につく」という意見も生の声として、書き手側にも検討と熟慮が求められるだろう。

われわれが現実にもどうもやりにくいと思っている部分に読者も同じような反応と意見を寄せている。全国の至るところで様々な反響が出ていることがはっきりしている。そういう意味で文書の向上のため、「委員会と読者との間でいろいろな形のホットラインの必要性」が高まりつつあることも見逃せない。心強いことである。

「劇画世代が増えている時代にマンガも面白い」と言ったノン・アルコールの方の提案もわれわれが考えている方向と一致する。

「本はどんどん読んでいく。良い回復にそれはつながる。本を読むメンバーは考えるタイプだからスリップする」などとは考えない。

アルコールクスという日本語訳。アルコール中毒、アルコール関連障害、アルコール依存症、もっと広い意味でのアルコール症。その言葉に対する世間一般のイメージの暗さなどについて、専門家の間では気になっているが、他の言葉が見つからないという発言もあった。

さまざま意見を前にして「今一番かけているのは企画。企画の集まりを実行してもらいたい」という発言の前に一層の責任を感じずるものである。

★ ★ ★ ★ 専門家のミーティング 病院施設委員会

私たちAAメンバーの多くは、保健所、病院、施設、福祉、報道関係の専門化の方々の支援を得てアルコール依存症からの回復の機会を得ることが出来たものと思っています。

今日までも専門家との個々の関係はもたれて来たものと思いますが、近年、その直接の責任を負うものとして、いくつかの委員会が設置されました。今回は、そのなかの一つである病院施設委員会が、専門家とAAグループが共有できるものとして「専門家のミーティング」を用意致しました。司会はAAメンバーが担当し、スピーチを4名の専門家の方々をお願いいたしました。その一部を紹介すると.....。

『アルコール依存症の人々に何かを.....。この思いは医療専門家も、多くの家族と同様に強く抱いています。患者本人たちと一緒にあって、ソフトボール、作業療法等にといろいろと取り組んでみてもその熱意は困惑と失意に変わっていきま。また関わっていく中で、本人たちが一時的に飲まない、期待と喜びを過剰に抱き、再飲酒をすれば落胆と悲しみをおぼえ、この落差をほどほどに乗り越えることができたなら、との思いを抱かざるをえない程に巻き込まれました。そしてAA12のステップの「無力」の文字に共感を覚え、AAグループと、その回復のプログラムに関心を持ち始めました』と、医療関係の二人の女性は話されました。

女性ジャーナリストの、アメリカ、カナダでの

AAミーティング参加の印象談には、専門家、AAメンバーは関心以上のものを感じたことと申します。

飲まないでより良く40数年を過ごしたAA老婦人との素晴らしい出会い。リラックスしたミーティングの雰囲気、そして、そこで聞いたインディオの——木に登った男が根元に立っている男に、「向こうからこっちに人が歩いてくる」と声をかける。すると根元の男は登ってみようともせず、「誰も来ない」と答えた。——という話。きっと、体も動かさず見る気もない人は、<良いソブラエティ>を得る機会も見落としてしまうことでしょう。

また、医療者であり本人である立場から回復の方法を求め、自らそれを受け入れることができ、患者本人たちと共にAAグループを誕生させて一緒に歩んでいるというある病院の院長は、アラノン・メンバーの参加も提言されていました。

私たちAAメンバーは、日々のメッセージやミーティングを通して経験と力と希望を分かち合い、そしてまだ苦しんでいる人々を手助けするという目的を持っています。専門家もこのミーティングに参加され、私どものAAミーティングに対するご理解をより深めて戴けたことと思っています。

今回参加されました専門家の方々との懇談の場をミーティング終了後に用意できなかった点が心残りでした。次回のラウンドアップには是非準備したいと思います。今回にも増して多くの専門家の方々の参加があればと願っております。そしてこのような「専門家ミーティング」を機会あるたびに開催していきたいと思っております。皆さまからのご意見ご感想等をJSGOあてに是非お寄せください。

最後になりましたが、当日、スピーチを快諾して下さいました専門家の方々に御礼を申し上げます。

「フォーラム」サービスについて 考えよう WSM評議員

約20名の参加者と司会者との対話、参加者同志の意見変換という形で、午後1:30から4:00まで、熱の入った会合を持つことができた。参加者はJSGOのスタッフや、常任委員会メン

バー、に加え、大阪、名古屋、宮城のメンバーを迎え、「フォーラム」に地域的広がりを持たせることができた。

中心課題は「全国サービス体系」で、まず、WSM評議員の私設委員会——「全国サービス体系提言委員会」の活動状況と断片的な中間構想を述べることから進められた。(* ①)

文書については「12の概念」の仮翻訳を進め、現在1, 3, 4が完了。残りも夏までに完了させてワープロ印刷する。

US/カナダ・サービスマニュアルを大阪のメンバーがワープロ印刷中。(* ②)この2冊(* ③)は「提言委」の管理とし、請求があれば実費でどなたにも頒布するとのことであった。

地域割りについて、日本全国を5~6の自治地域に分けることについて、「提言案」は中部、関西、中国、四国を「西日本」という大区画にする考えであったが、名古屋の仲間から、中部圏は独立した文化圏であるという主張から、中部地区地域を独立させる考え方を検討することにした。

セントラルオフィスが各地域のサービス活動の中核的役割を担い、現在オフィスのある西日本と関東甲信越を除き、設立が期待されるが、性急さは避けなければならないとした。

AAメンバー一人ひとりの意向を吸収し、それを集約化して日本アルコールクス・アノニマスの方針に反映させていくこと、またそれぞれの地域の要請を、的をえた機関に直接渡して、迅速に社会での機能を果たしていけるよう、サービス・ネットワークを今、作りはじめていく必要性を説く意見が多かった。

次にすでに関東常任委員会で決定し、ラウンドアップ直前で委員長が確定した「グループ委員会」の行動開始が強く要請され、当会場で副委員長として今井氏が推薦され、本人の受諾により決定した。第一回会合を7月に持つ。

(以上WSM林評議員記)

*① 秋に第一次試案を文書化したものをテキストにしてサービス・フォーラムを開きます。

*② その後、翻訳修正作業が進行中。

*③ その後、英文の「絵入り・12の概念」が刊行され、翻訳進行中。サービス体系を考える上で、3冊が必携書物。

「グループ委員会」について

アルコール中毒回復の分野で、AAが社会の中で十分に機能を発揮していくために、全国的なサービス体系の整備が提案されています。それにもかかわらず、その全体の構成単位であるグループが次々と誕生し、歩んでいくなかで、伝統がよく理解できずに「戸惑い」を数多く伝えてきています。個人の回復がスポンサーシップで支えられるように、グループの健康的な歩みは、グループのスポンサーシップなしでは進められません。

地区委員会や地区幹事集会、JGSOやセントラル・オフィスがそれに当たってきましたが、選挙母体を全国代議員集会に持った。「グループ委員会」がそれらに加わっていきます。依頼に応じ、訪問、書信、電話等で相談に乗っていきたくて意欲を強めています。

ここに委員長、副委員長が選出されましたので、全国から、委員会メンバーとして熱意ある若きAAメンバーを募ります。

AAグループ委員会委員長 林
副委員長 今井

☞ 「スポンサーシップ Q & A」

4月14日発行 ￥600

AAのメンバーにとって、スポンサーの役割を引き受けることは、何か特別な負担だと思いがちである。しかし飲まないメンバーならだれでもスポンサーを引き受けることができるし、この役割は特別な人だけにまかせておくべきでない。自分自身のソプラエティに強い力と勇気を与えてくれるものである。……ということをいろいろな例を示しながら、易しく解説したパンフレットである。

メンバーが個人として或いは、グループで新しいメンバーを迎える場合、ビジネス等で討論する材料としては最適な一冊である。(翻訳一部改訂)

<文書委員会>

★ ぐるーぷだより ☆

緑がいっぱい

北多摩北部地区 保谷グループ

都市化が急速に進展している昨今、わが保谷グループがある保谷市もご多分に漏れず、市街化が進んでいます。しかし、かつては農村地域であったためまだ緑が一杯大きなケヤキ、榎などが生い茂り畑にはキャベツや大根等の野菜が青々とし、田園風景も見られます。保谷市は東京都の西北部に位置し、北は埼玉県、南は武蔵野市、東は練馬区、西は田無、東久留米市とそれぞれ隣接しています。市制が試行されて満20年、新しく成人した市です。

わがグループは昨年4月に誕生しました。やっと歯が生え、ヨチヨチ歩きを始めたばかりですが、もう成人式を迎えたと言っても過言でないほど、活発で力のみなざる活動をしています。

グループの皆が大切にしているのは、「愉快地やろう」「気楽にやろう」です。ミーティング場は市の消防団の二階に約20畳程の座敷があり、冷暖房完備の快適なところです。この畳敷きの集会所にテーブルを四角に並べ、座布団を敷き、思い思いの格好で座り、ミーティングを開きます。

グループの誕生から日が浅い割には構成員が多くて2桁です。年齢は若い人たちが多く、(30代40代)活気にあふれています。

週に二回(火・土)のミーティングは少ないように思えますが、その分、他のグループに足を運べるので多くの仲間の力をもらうことができ、よい結果が出るように思います。

これからも共通の問題を解決するために、互いに信じあい、新しい生き方を続けていきたいと望んでいる次第です。(0生)

【献金】



「絵で見る12の伝統」※